

わたしから始める、世界が変わる

Hunger Zero News

2022. 4
No.381

ハンガーゼロ・ニュース

1分間に17人 (内12人が子ども)
1日に2万5,000人が
1年間では約1,000万人が
飢えのために生命を失っています



Contents

ウクライナ難民緊急支援 P.2



HZスタッフ3名を
ポーランドに派遣!
募金にご協力ください

インターンシップ体験記/白井さん P.3

ハンズ・オブ・ラブ・フィリピン
コロナ禍でも活動を継続 P.4-6

新海外パートナー「愛の手ザンビア」 P.7

写真：国際飢餓対策機構の緊急支援 ①食料の配布
②ポーランドに設置した一時避難場所の子どもたち



ロシア侵攻に苦しむウクライナの人々を支援



ウクライナにとどまっている避難民（現在は未確認）

ハンガーゼロは、ロシア軍のウクライナ侵攻でポーランドやスロバキアに逃れた難民や国内にとどまっている人々を支援している「国際飢餓対策機構」(FHI)に協力してウクライナ救急支援の募金受付を開始しました。

(3月3日以降のハンガーゼロホームページで一部既報)

●ポーランドに活動拠点

国際飢餓対策機構は、現在ウクライナ隣国のポーランドのルブリン市とスロバキアに拠点を確保しています。活動計画(3月中旬時点)は、第1～第3段階まで策定されています。第1段階は①食料や生活支援キットの配布②ポーランドにいる難民の一時避難場所の提供。第2、第3段階は停戦を見据えて③復興のための心のケア④元の居住地への帰還支援⑤復興・生活再建としています。

第1段階では、ウクライナのキエフ、チェルカースィ、メルトポリにとどまっていたウクライナ人への食料・緊急キットの配布(3月に入り

戦闘激化で中断)と同ウジホロドで戦火を逃れてきた国内避難民とスロバキアに逃れた難民への食料提供(計2800食)を実施しました。また



キエフ郊外での食料配布(3月上旬)

戦闘が激化している東部で避難できない2万人に緊急支援キットの支援を行っています。さらにポーランドのルブリン市内で難民のための一時避難場所(滞在最長1年)を設けて、避難生活をサポートしています。

ハンガーゼロスタッフ3名をポーランドに派遣

ハンガーゼロは3月21日に緊急支援活動への人的協力として、スタッフの近藤、申、ジェロムの3名をポーランドに派遣しました。3人は4月上旬まで滞在し、国際飢餓対策機構の緊急支援活動に加わります。現地での支援活動の様子を随時ホームページなどで伝える他、本紙次号でも詳しく報告致します。加えて、3月初めに単身ポーランドに入り、いち早く難民支援をしているフルート奏者のソルナム氏(ハンガーゼロ親善大使)とも合流して協力します。ソルナム氏は、ウクライナから鉄道でポーランドに着いた難民の心を癒そうと駅のホームや構内でフルート演奏をしたり、国境を徒歩で超えてきた母子家族らのために自らが用意した複数台の車で「移動センター」や必要に応じて首都ワルシャワまで送迎するボランティアをしたりしています。

支援者の皆様へ…このニュースレターがお手元に届く頃にはウクライナの状況が大きく変化(戦争終結又は長期化)していることもありますので、最新情報はハンガーゼロのホームページで確認くださいようにお願いいたします。

●ウクライナの人々を助ける緊急支援募金に、ご協力をお願いいたします。



ポーランドのプシェミシル中央駅でフルート演奏するソルナム親善大使

【緊急支援募金】

募金は①郵便振替 ②ホームページからのクレジット決済利用の2種類

①郵便振替 00170-9-68590 一般財団法人日本国際飢餓対策機構 「ウクライナ緊急支援」と明記
②ホームページ 募金画面からクレジットカード、コンビニ決済がご利用できます。



「Nたまインターンシップ」体験から学んだこと／しら い まれ が白井希佳さん

ハンガーゼロ愛知事務所では2008年の第6期研修生から「Nたまインターン」を受け入れています。Nたまは、名古屋NGOセンターが主催する半年間の研修プログラム「次世代のNGOを育てるコミュニティ・カレッジ (<https://nangoc.org/ntama/>)」の通称です。座学、フィールドワーク、インターンシップなどの実地体験を組み合わせたユニークな研修で、たくさんの出会いと気づきを通して、研修生自らが主体的に「世界と私の関係」を考え行動していく講座です。今年度インターンシップに来てくれた、第18期研修生の白井希佳さんがハンガーゼロでのインターンシップ体験を語ってくれました。



自分も活動に携われるという喜び

私は、2021年8月から2022年2月まで、週に1～2回、ハンガーゼロ愛知事務所でインターンシップをさせていただきました。大学で国際関係学科に所属し、主に英語や多文化共生について学んでいますが、大学に入学する前から国際協力に関心があり、「何か自分にもできることがあるのではないか」という思いから、インターンシップへの参加を決めました。

インターンシップでは様々な経験をさせていただきました。ハンガーゼロさんが支援している子どもたちからの手紙の翻訳に携わることで、各国の文化や生活の様子を知りました。子どもたちの手紙には感謝の気持ちが多く綴られていて、必要な人に必要な支援が届いていることが実感でき、自分がそのような活動に携われていることに喜びを感じました。また、今年度、特に力を入れているケニアの「学校農園プロジェクト」にも携わらせていただきました。本プロジェクトの広報のために、昨年度インターンをされていた塩田匠弥しおたなるやさんに企画ミーティングに加わってもらいながら、

ワールドコラボフェスタの展示内容やイベントの企画をし、また、プロジェクトの報告の翻訳を体験させて頂いたりしました。ケニアでは、気候変動の影響で継続的に食料を手に入れることができず、学校給食の食材を提供できないため学校に通えなくなる子どもがいて、食料が手に入らないことが、教育の問題にも影響していることを知りました。その解決策として、学校にモデル農園を作り気候変動に対応した農業技術を学ぶ機会を提供することで、地域住民が食料の生産性を上げることができ、子どもたちが学校に通い続けられると学びました。貧困問題に対しては、食料援助をするというイメージが強かったのですが、ケニアの人たちが今後支援に頼らずに自分たちが主体となって進めていけるようにサポートするなど「持続可能な」支援をしていくことが必要であると感じました。

得た学びを生活に生かしていきたい

半年という長い期間、インターンシップを受け入れてくださりありがとうございました。ここでの活動を通して、世界には貧困や飢餓の状況にある人が大勢いることに気づかされました。今後も、翻訳ボランティアやイベントに参加するなど、ハンガーゼロさんの活動に関わっていければと思います。そして、ここで得た学びをこれからの生活にも生かしていきたいです。



私たちロングライフグループは、ハンガーゼロの活動を応援しています。

ロングライフは1986年の創業よりケアサービスひと筋。全国に展開しています。



Health & Natural Beauty

ロングライフグループ



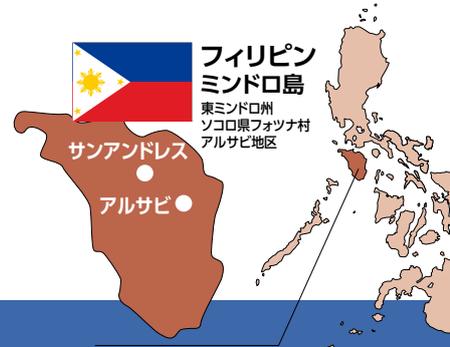
0120-550-294

受付時間
9:00~18:00
年中無休

大阪本社 / 〒530-0015 大阪市北区中崎西2-4-12 梅田センタービル25階 東京本社 / 〒100-0004 東京都千代田区大手町1-6-1 大手町ビル9階
ロングライフグループ拠点: 北海道 / 埼玉 / 東京 / 神奈川 / 千葉 / 静岡 / 愛知 / 大阪 / 兵庫 / 京都 / 大分 / 沖縄 / 中国 (青島) / 韓国 / インドネシア (ジャカルタ)



ロングライフタウン寝屋川公園 フィレンツェの丘



コロナ禍でも活動を継続

COVID-19 (新型コロナウイルス) の感染拡大による地域隔離政策が始まって2年が過ぎました。フィリピンはその間、一度も移動規制を解除せず今に至っています。当初は規制の内容が変わるたびに大きな混乱が起きていましたが、現在はその仕組みが周知されてきたことで、必要な手続きをすれば規制の枠内でスタッフが移動でき、活動を継続していくことができるようになりました。HOLPFIのスタッフ全員が2回接種(ワクチンの種類は様々)を受けて、一定の安全が確保されていることは感謝ですが、私たちが支援をしているマンヤンのコミュニティの人たちがワクチンを受けるめどは立っていません。



マンヤン族のリーダー二人とHOLPFIスタッフ



東ミンドロ州ソッコロ県アルサビ村の小学校

アルサビ小学校

移動制限は継続されており、また登記をするための政府機関側の担当者がコロナ患者となって業務が止まるなど、手続きは遅れていますが、一部手続きは不完全ながら、正式に教育省から学校と認められてフィリピンの学校として登録されました。次年度からは、独立した予算が与えられることとなり、子どもたちへの教育がより充実していくことが期待されます。

未登記の土地の登記が終われば、すべての手続きが完了します。あともう一息です。

アルサビにある植物

このアルサビ村の人たちがこれから増大する教育費の支出に対応する為に、追加の現金収入が必要だと私たちは思っています。その為にコミュニティの人たちだけでは気づきにくい資源があると思い、マニラからスタッフがいき資源調査を改めて行いました。



ニト

そして、村の人の中には、ニトという材料を使って帽子を編める人たちがいたり、アクセサリーの材料になる植物種子があることがわかりました。最寄りの村のフォツナは観光に力を入れているのでマーケットはあります。私たちの活動のまとめとして今後は現金収入増加のための支援をしていく予定です。



種子で作ったイヤリングと首飾り



ニトで作るバック



西ミンドロ州リガヤ村ファグリブアン地区へのアプローチの再開

ワクチン接種がこの村を訪問するときの条件(その時点ではフィリピン国内でワクチン接種は行われていなかった)とされていたために訪問できずにいましたが、HOLPFIの全



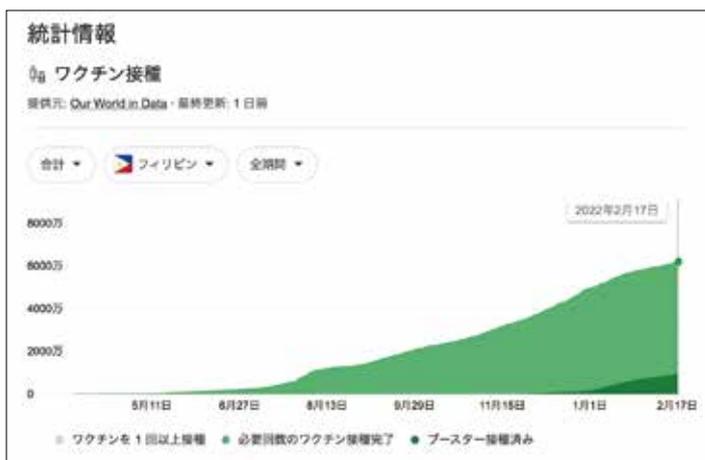
感染対策を実施しながらのセミナー兼住民との話し合い

スタッフが2回のワクチン接種を完了し、ようやく条件を満たすことができたので訪問を再開しました。現状として、バランガイ・キャプテン（地方政府長）に私たちの活動を理解してもらうのが難しく、支援を始めることができるかどうか不確かな状況です。バランガイ・キャプテンには多くの権限があり、中央政府の目が行き届かないため不正の温床となることが多々あります。私たちは今まで、好意的に受け入れてもらう事がほとんどだったのですが、今回は私たちを通じてなにかを得たいと願っているようです。フィリピンにおいて、バランガイの協力、理解がなければ持続的な開発の支援活動は不可能と私たちは理解しています。現在、情報を集めて今後の対応をどうするかスタッフと話し合っています。

コロナ（COVID-19）の状況と入国手続き

フィリピン全体での接種率は2月の時点で1回目54%、2回目7%となっています。そのような状況ですが、集団免疫ができたという判断なのか、経済活動を優先するためにそういう政策に切り替えたのかはよくわかりませんが、2月に入り、実質的に外国人の入国制限を解除しました。

それにともない、酒井スタッフは3月21日に日本を発ってフィリピンに戻り、現地での支援活動を再開しました。ただし、今回はフィリピン国の事情で1ヵ月程度での滞在となるので、帰国後、諸手続きを経て早期に酒井慶子スタッフとともにフィリピンに戻る計画を進めています。



フィリピン保健省より

【台風ライ被災者支援活動】

パラワン島 住民の家の屋根修理を応援

すでにウェブサイトでも報告させていただいていますが、昨年12月14日の超大型台風ライ（フィリピン名：オディット）で、2月末現在、42万7千件の家屋が倒壊、150万の家屋がなんらかの被害を受けました。5万6千人の人々が野外生活、7万7千人が避難所で生活をしています。私たちの活動行政区は4つの大きな島で構成されていますが、その中の一つ、パラワン島でも大きな被害があり、その島で活動していたHOLPFIの理事であるベー牧師からの支援要請を受け、最も被害が大きかったコミュニティのひとつの支援を実施しました。



●スタッフのエバを現地に派遣

限られた予算であったのと被災された方自身での復興をすすめるために、まず住居の確保をとということで、家を失った40世帯に対して建築資材の提供を行いました。

スタッフのエバは移動するための許可（コロナ検疫検査）を得た後、現地コーディネートのために一週間滞在しました。彼女自身経験したことのない被災状況に心が傷んだと報告しています。

被災地域は停電が続いており、2日に一回発電機を使う生活で、それで外部との通信を確保しています。1月中旬に手配した資材が2月上旬に到着。村では一部の人が寄せ集めた資材でなんとか夜露を凌いでいましたが、ようやく本格的に家屋の補修が可能となりました。今回の支援は、197万の家屋が被災した中ほんの一部の家族への支援でしたが、皆様のご支援で実施しています。しかしながら、支援を必要としている家族は他にも多くおられます。一軒あたり3万円あれば、屋根の補修は可能です。ぜひご支援をお願い致します。

【フィリピン台風緊急募金】

募金は、郵便振替又はウェブサイトからクレジットカード決済が利用できます。右のQRコードから入れます。



●郵便振替

00170-9-68590 （一財）日本国際飢餓対策機構
記入欄に必ず「フィリピン台風」と明記のこと
●募金目標：300万円 ※募金の受付は4月まで



ハンズ・オブ・ラブ・フィリピン

HOLPFI

持続可能な開発と人の成長

持続可能な開発を可能にするためには、人の世界観が変わる必要があります。HOLPFIは立ち上げ当初から人の変革を目指して活動してきました。それは支援を受ける人たちだけではなく私自身や一緒に働くスタッフにも必要であり、支援して下さる方々にも言えることでしょう。

私たちは「私たちが関わるものがなくなっても人の変革が続いていける」をコンセプトに活動を続けてきました。その結果として、コロナで2年間私たちが日本にいても共に働きを進めることができたのだと感謝しています。

今回は毎日のように連絡をとって活動を継続してくれているスタッフを紹介させていただきます。

エバ・パノピオ (38) / ミマロパ地区エリア・マネージャー

元々会計係として事務全般を担当。私が話すフィリピン人スタッフにとって新しい概念を、エバは一番早く理解して他のスタッフに説明してくれます。仕事に対しても真摯で金銭感覚もあり本当に頼りになります。2月に母親が亡くなった時でも誠実に仕事を進めてくれました。



バリー・ソダイ (28) / 地域開発担当

マンヤン・ハヌノオ族出身。現在3年目。カトリックの司祭を目指すも病気になり断念。その後マニラで働いていて不正を強要され退職しHOLPFIに入職。担当はコミュニティ開発。精神的に安定していて粘り強く地域の人たちの為に活動してくれています。



アメリア・マミルダン (31) / 教育支援担当

マンヤン・イラヤ族出身。大学で農業を学び、政府の自然資源省での仕事を経てHOLPFIに入職。奨学金支援、地域開発プロジェクトのサポート担当。父親は牧師で地域の部族の代表でしたが昨年召されました。コロナ禍の厳しい移動制限のために彼女は葬儀に出席することは叶いませんでした。



ジョイ・ロミオ (25)

昨年よりミンドロ事務所で働いています。高校卒業後2年間神学校へ、その後大学の生活総合学科で学び、キリスト者学生会での活動を通じてHOLPFIを知り入職。友人等に積極的に活動を啓発し、先日はその友人が貯めたコインを募金として持ってきてくれました。団体の働きの活性化の為に頑張ってくれています。



アグネス・アルメンドラル (55) / 事務・啓発

大学生と小学生の母親で2時間かけて通勤。9年目で最年長のベテラン。マニラ事務所でHOLPFIの活動に必要な申請、登録作業、決算書作成など事業管理業務一般を担っています。フィリピンでは毎年登録の更新をしなければならず彼女の働きは本当に助かっています。



アニータ・アシ (29) / リソース・デベロップメント (資金調達)

私たちの最初の活動地サン・アンドレスでのスクールバス・プロジェクトの受益者。高校では成績優秀者でしたが経済的な問題で就職。高卒のため就職機会が恵まれずHOLPFIの支援で24歳の時に大学でマーケティングを学び、HOLPFIの啓発、募金活動を担当。



毎年必要な事業登記のためにスタッフは1日並ぶ。密を避けるため登録は体育館で

HOLPFI (Hands of Love Philippines Foundation Inc.)

2008年JIFH(現HZ)の支援を受けて、フィリピンにおいて持続可能な開発(ビジョン・オブ・コミュニティ)を推し進めるために立ち上げられました。それ以来、東ミンドロ州の山間部で原住民マンヤン族をはじめ、住民自身が主体となる活動支援を続けています。HOLPFIは、HZの酒井保駐が責任を担っています。



コロナ感染から守る「緊急救援募金」に応援をお願いします

募金は、郵便振替又はウェブサイトからクレジットカード決済が利用できます。
ウェブサイト <https://www.jifh.org> ※ハンガーゼロで検索又は右QRコードから
郵便振替 00170-9-68590 日本国際飢餓対策機構 ※記入欄に「緊急救援募金」と明記
募金集計：2月末日現在で約1304万円、皆さまの応援を心より感謝いたします。



スマホから募金ページに

新たな海外パートナーに **AINOTE Southern Africa** (愛の手ザンビア)

貧困問題に取り組むリーダーを育成し地域変革をめざす

ハンガーゼロは、アフリカのザンビア共和国に設立された「AINOTE Southern Africa (通称：愛の手ザンビア)」を海外パートナーとして提携しました。同団体の運営や活動にあたっては、コンゴ民主共和国の Hands of Love Congo (ジェロム・カセバ代表 = ハンガーゼロ) がアドバイザーとして協力していきます。

AINOTE Southern Africa が設立された主な目的は、アフリカのこの地域において VOC (持続可能な社会) の構築を促進することであり、同じ志を持つ現地リーダーを育て人々のネットワークを拡大することです。それは隣国コンゴ民主共和国の Hands of Love Congo ですすでに始まっています。それぞれの国で考え方の変革を遂げたリーダーが、人々の生活を変革するために地域コミュニティの協力のもとに活動します。小さなことから自分たちの村にあるものを用いて始めていきます。このネットワークは地域の変革を促し、地域の主要なリーダーの能力を強化するものです。

■ ザンビア共和国 (Republic of Zambia) の概要 ■

- 面積**…752.61 千平方キロメートル (日本の約2倍)
- 人口**…1,910万人 (2021年7月)
- 首都**…ルサカ 海拔 1,272メートル
- 民族**…73 部族 (トンガ系、ニャンジア系、ベンバ系、ルンダ系)
- 言語**…英語 (公用語)、ベンバ語、ニャンジア語、トンガ語他70 以上
- 宗教**…8 割近くはキリスト教、その他 イスラム教、ヒンドゥー教、伝統宗教
- 外交**…コンゴ民主共和国とのつながりが最も強く、近隣諸国との善隣関係に努めながら、紛争の多発する周辺地域の中で中立政策を維持して地域和平の構築に尽力しています。



愛の手ザンビア代表
マイケル・ムラオ



- 主要産業**…鉱業 (銅、コバルト等)、農業 (トウモロコシ、タバコ、綿花、大豆)、観光
- GDP**…193 億米ドル (2020年：世銀) (日本 50487 億ドル)
- 主要輸出品**…銅、セメント、タバコ等
- 通貨**…ザンビア・クワチャ (ZMW) 1 米ドル = 18.34ZMW

【国の経済と人々の生活】

ザンビアは最近続いている干ばつや銅価格の下落、不確かな財政政策などですでに弱体化していた経済が新型コロナウイルス感染症によって、さらに困難な状況に追い込まれました。コロナ感染拡大による規制は、所得を減少させ家計の食料へのアクセスを制限したため、全国的な食料不足を悪化させました。人口の大多数は農業に依存、3分の2は貧困ライン以下で暮らしていて、特に地方の貧困が深刻です。出生率は高く女性1人当たり6人近くの子どものいますが、HIVエイズが蔓延していて、すべての子どもが大人になるまで生きるのは困難な状況です。

資料：外務省、世界銀行、ワールドアクトブック

ハンガーゼロサポーターとなって、「愛の手ザンビア」をご支援ください。スマホでQRコードを読み取り公式HPに入れます▶



備蓄をしながら社会貢献



世界にパンを届けよう

救缶鳥
Kyu-Can-Cho

皆様から回収された救缶鳥は各地に飛んでいきました！



食料が不足している、国内外の豪雨・地震等の災害被災地や、海外の飢餓地域等へ送られました。



おいさと夢をお届けします。

株式会社パン・アキモト

パンの缶詰
since 1995

〒329-3147
栃木県那須塩原市東小屋295-4
TEL 0287-65-3351

パン・アキモト 検索

ハンガーゼロ(日本国際飢餓対策機構)は、イエス・キリストの精神に基づいて活動する非営利の民間海外協力団体(NGO)です。1981年に誕生して以来、世界の貧困・飢餓問題の解決のために、自立開発協力、教育支援、緊急援助、海外スタッフ派遣、飢餓啓発を行っています。現在は、国際飢餓対策機構連合(Food for the Hungry International Federation)の一員として、18ヵ国60のパートナー団体と協力し、アジア、アフリカ、中南米の開発途上国で、「こころからだの飢餓」に応える活動をしています。



インド オーガニック茶葉 フレーバーティーセット

すっきりさわやかなフレーバーティーでリフレッシュしましょう。南インドのケララ州のオーガニック製法の茶葉です。

カルダモン、ジンジャー、バニラ、シナモン、マサラの5種類を1セットにしてお届けします。

【1セット送料込み 2000円】

セット数に応じて送料加算となります。

【お支払い】 後払い

お申し込み:

(株)キングダムビジネス
スマートフォンは右の
QRコードから

電話注文: 06-6755-4877



書き損じ「年賀はがき」で協力

書き損じた「年賀状」やポストに未投函のもの(書き込み、汚れのあるもの、私製ハガキは不可)、また消印のない「未使用切手」がありましたら、**大阪事務所までお送りください**。国内外の通信に用いさせていただきます。また、未使用の切手(記念切手も含む)もありましたらお送りください。



理事会を開催

一般財団法人 日本国際飢餓対策機構の「定例理事会」を3月4日(金)に大阪で開催しました(オンライン出席者も含む)2021年7~2022年1月の各事業部活動報告と今年度後期(1月~6月)の計画などが審議されました。

酒井・小西駐在員が派遣地へ

ハンガーゼロの海外駐在スタッフの酒井保(ハンズ・オブ・ラブ・フィリピン)と小西小百合(ボリビア)は、3月21日以降にそれぞれの派遣地地に戻りました。なお、酒井スタッフは、フィリピン側の都合で今回は1ヵ月程度の滞在で帰国します。

清家理事長ラジオ出演

ハンガーゼロ清家理事長が森祐理さん(ハンガーゼロ親善大使)のラジオ番組「モリユリのこころのメロディ」(ラジオ関西 毎週木曜日午後9時半)に3月3日と10日に出演しました。モリユリ・ミュージック・ミニストリーズのホームページで録音をスマホやパソコンで聴くことができます。

通常勤務体制に戻りました

支援者様には電話対応・領収証の発行・支援申し込み手続きなどで、大変ご不便をおかけしておりましたが、蔓延防止等重点処置の解除で3月22日から各事務所で通常体制になりました。なお感染状況が急変した場合は、再び変更することもあります。

健康サプリを買ってモザンビークを応援!!

ハンガーゼロの応援企業であるロングライフが人生100年時代に開発した、エイジングケアサプリ「LONGLIFE NMN」をご購入いただくと、売上の一部がモザンビークでの活動支援



(若い農夫の育成)にあてられます。「NMN」とはビタミンに似た物質で、世界の老化学研究者が注目する成分。「健康維持のために自分に投資した人が、社会の課題に少しでも役立てる機会になれば」との願いが込められています。

●LONGLIFE NMN (1ヵ月分/60粒入り) 通常価格37,800円(税込)のところが、**モザンビーク支援特別価格25,000円(税込)** サプリ1個につき1000円を寄付。お求めはお電話(06-6633-7507)又はWEBから▶



サポーターお申込み欄 FAX072-920-2155

氏名	フリガナ
(TEL)	
住所	〒
申込日	年 月 日 NL381号

<input checked="" type="checkbox"/>	下記から希望されるものをお申し込みください
<input type="checkbox"/>	ハンガーゼロサポーターとして協力します。 ①毎月()円 □(1000円) ②一時募金として 円協力します。
<input type="checkbox"/>	継続募金(JIFH サポーター)として協力します。 毎月()円 □(500円)
<input type="checkbox"/>	チャイルドサポーター(子ども1人毎月4,000円)の説明書(申込書)を送ってください。
<input type="checkbox"/>	郵便自動引落とし申込書を送って下さい。
<input type="checkbox"/>	その他の銀行自動引落とし申込書を送って下さい。

上の申込書をコピーして必要事項を記入の上、FAXまたは郵送にて大阪事務所までお送りください。届きましたら確認書類等を送らせていただきます。お電話やウェブサイトでも申し込みできます。

Hunger Zero サポーター 現在... **5152**口

■発行者 清家弘久

■発行所 一般財団法人 日本国際飢餓対策機構



Webサイトアドレス <http://www.hungerzero.jp>
eメールアドレス general@jifh.org
フェイスブック facebookでハンガーゼロで検索

■募金方法 ※各種方法で随時受付中、詳しくは電話やウェブサイト
①郵便振替 00170-9-68590 一般財団法人日本国際飢餓対策機構
②他の金融機関からの自動振替③クレジット、デジタルコンビニ



大阪 〒581-0032 八尾市弓削町 3-74-1
TEL (072)920-2225 FAX (072)920-2155
東京 〒101-0062 千代田区神田駿河台 2-1 OCCビル 517号室
TEL (03)3518-0781 FAX (03)3518-0782
愛知 〒460-0004 名古屋市中区新栄町 2-3 YWCAビル 6F
TEL (052)265-7101 FAX (052)265-7132
沖縄 〒900-0033 那覇市久米 2-25-8 メソソク米 202号
TEL (098)943-9215 FAX (098)943-9216
USA Ainote International c/o Mr. Takehiko Fujikawa
8010 Phaeton Dr. Oakland, CA94605
TEL (510)568-4939 FAX (510)293-0940



Hunger Zero



JIFH



チャイルドサポーター